

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 10月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202395
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアクオリティ草薙
所在地 (電話番号)	静岡市清水区草薙1丁目23番16号 (054-348-6350)
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年9月5日

【情報提供票より】(平成20年7月29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	16 人 常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 7.5 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(65,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円 実費		

(4)利用者の概要(平成20年7月29日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 15 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 82.3 歳	最低 52 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	桜ヶ丘病院、くさなぎ小児科内科医院、川村歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静岡市日本平北面の草薙地区の住宅地にあるホームは地域の要望により設立したこともあって地域との関わりは円滑で、利用者は自由気ままに外出して馴染みのお宅を訪問したり、地域の祭りの準備・後片付け、町内や公園の清掃、防災訓練への参加など地域社会と多様な交流を図っている。また、管理者及び職員はグループホームの真の目的である地域密着型サービスを実践しようと利用者の明るく輝いた笑顔と笑い声を絶やさず、地域の人達に施設のイメージを少しでも払拭させ普通の家庭として受け入れられるように日夜努力しており、非常に明るい雰囲気とするホームを作り出している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価による改善課題はすべて改善に向けた取り組みがされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価における課題については改善の取り組みが見られ、今回の自己評価の実施に当たっても評価の意義を理解した上で、職員全員による評価が行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度定例的に開催されており、そこでの意見等は早急に検討・実行するなどした取り組みが見られる。また、参加メンバーは多士済々に渡っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の協力なしでは充実したケアはできないことをモットーに、家族会、運営推進会議の場や家族の来訪時あるいは電話等により意見・要望・苦情等を収集し、毎月の会議などにおいて職員間で話し合い改善に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者一人ひとりが地域と繋がりが暮らし続けられるよう、祭りの準備手伝い、防災訓練や町内のどぶ掃除から老人会による公園清掃等、幅広く地域との結びつきに努め、また、地元の人々との交流も盛んに行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が愛と笑顔で、地域の人達との関わり合いを持って、ゆったりと楽しく、自由に暮らすことを理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、玄関に掲示したり、会議の場などにおいても理念の共有化を図るための話し合いが行われるなど、理念の実践に向けた取り組みがされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう、祭りの準備手伝い、防災訓練や町内のどぶ掃除から老人会による公園清掃等、幅広く地域との結びつきに努め、また、地元の人々との交流も盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価における課題については改善の取り組みがみられ、今回の自己評価の実施にあたっては評価の意義を理解した上で、職員全員による評価が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定例的に開催されており、そこでの意見等は早急に検討・実行するなどした取り組みが見られる。また、参加メンバーは多士済々に渡っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	書類提出など必要に応じて市役所の担当窓口に出向き、折にふれ情報交換を行っている。また、地域包括センター職員の訪問もあり、連携は密に行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会、運営推進会議の場、あるいは家族等の訪問時や電話連絡の際などに、あらゆる機会を通して利用者の暮らしぶりや健康状態をお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の協力なしでは充実したケアはできないことをモットーに、家族会・運営推進会議の場や家族の来訪時あるいは電話等により意見・要望・苦情等を収集し、毎月の会議などにおいて職員間で話し合い改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム内の異動においては1階・2階、どちらのユニットにおいても対応できるようホーム内を職員や利用者が自由に行き来できるようにしているほか、職員の退職にあたっては引継ぎ期間を十分とり、利用者への影響を少なくするため周囲の職員がフォローする体制を敷いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には本社研修に参加させ、日常的には職員個々の得意分野を活かした職員会議での勉強会も実施されている。また、外部研修を受ける機会を多く持つように努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修会に出席し、そこで知り合った同業者と情報交換したり、また、他のグループホームの管理者、ケアマネージャー、オーナー等との交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が安心して落ち着いた生活ができるよう、家族等からの情報(生活歴、趣味・趣向等)を考慮して、職員による声掛けや家族とも相談をしながら、職員や他の利用者に慣れるような雰囲気づくりに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とは常に密着し利用者から生活の知恵を少しでも多く学び取ろうと、支援する側・支援される側という垣根を取り外した中で一緒に喜怒哀楽が感じられる関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の心の動きを察した言葉掛けが安心感を持たせることを理解した支援が行われている。調査当日、利用者の一人が沈んだ気持ちを切々と職員に訴えていたが、思いや意向を根気よく聞いてあげたことにより次第に気が落ち着き、終わりには明るい笑顔が見られた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のモニタリングや家族からの要望に応じられるよう介護計画が作成されている。また、何の為にやっているかを考えながらのケアプラン作成には職員全員で取り組んでいることが、利用者に対し自分の言葉となって現われ、「心」を大切にしたい支援が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン作成の流れに沿って定期的に見直した介護計画を作成している。また、利用者の状況を把握し、随時必要に応じた見直しを行なうよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地区のお祭りに利用者がお手伝いしたことで、自信につながり役割を持つ喜びを得ることができたことから、これからも「手伝う」「助け合う」を活かした支援を考えている。また、家族の協力を得て外泊・外出・外食の支援も行なわれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診が行なわれている。総合病院の通院は職員が利用者を送り、診察時は家族が付き添われている。また、開業医への通院は職員が同行しているため、その結果を家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族と終末期に向けて関係者と話し合い方針を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合わせた言葉使いや、使って傷つく言葉に注意しており、プライバシー尊重の精神は全職員に浸透している。また、書類の扱いには注意が払われ、鍵のかかる場所で保管するなど、プライバシーの確保の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせたペースの支援は、職員が日々の生活から本人の希望やその人のためにどうすれば良いのかを常に意識して対応する姿勢に窺える。また、外出や居室での過ごし方も各々の思いでの暮らしぶりが見受けられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が菜園で作られた野菜を調理し屋外で食事されるなど季節を楽しむ工夫を取り入れてあった。職員は利用者の状態への配慮や好みを取り入れた献立を心掛けている。	○	利用者の好みや色彩や献立の組み合わせに工夫されている様子は伺えるが、できれば献立の見直しを定期的に行ないバランスのとれた食事であり内容の充実した献立作成の検討が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午前と午後に分けて利用者の希望に添うよう行なわれている。お茶のカテキンを利用した足浴で水虫の予防・対策も行なわれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域のお祭りの片付けなどを手伝った経験が、利用者の役割を認識させ、また、自信となって地域との関わり合いが持てるようになってきていることから、自治会に理解と協力をお願いし、社会的な生活の支援策を検討している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の中には一人で近所に散歩される方もいて、当日も玄関で挨拶されて外出された。近所の方と顔見知りになりホームに遊びに寄られたりして良い関係が作られている。また、車での外出など季節の楽しみや見学なども行なわれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はされていない。利用者の行動は自由に外出ができ必要に応じた対応は職員の見守りで行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議等の場において協力要請による実施と地域の防災訓練における避難誘導訓練が行なわれている。また、運営推進会議で避難場所を近くの小学校に変えられるよう役員の助言を得て変更された経緯もあり、地域との関係づくりは良好であり、利用者の各居室にはヘルメットを常備するなど、利用者の安全確保にも努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分量・食事の摂食量は記録され体調の変化を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所から食堂兼居間に続いている共有空間となっている。間取りは同じだが2階フロアは天井が高く明るい印象を与え、また、1階は庭に面した窓から開放的な印象を持たせている。不快な異臭や音がないよう配慮されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室毎に利用者の好みで選んだカーテンや置物・馴染みの家具が置かれている。居室でペットと暮らす利用者に代わって職員は世話をし、利用者とペットの寄り添う生活を見守る支援が行なわれていた。		